

験し易い“平成17年度専攻科学生募集要項”を作成した。

一方、全国の高専に専攻科が49校（平成16年度4月現在）設置され、他高専からの入学者数の増加は望めない状況である。

従って、専攻科の増員を図るためには、

- 1) J A B E E 認定などによる専攻科教育の更なる充実、特徴の P R、
- 2) 社会人にとって魅力ある講義体制

が必要である。

表3.1.7 入学試験の合格者における社会人、他高専出身の数

入学年度	定員	入学者			入学者計
		社会人	他高専	本校	
12	20	1	0	32	33
13	20	0	0	30	30
14	20	0	0	26	26
15	20	0	2	24	26
16	20	0	0	28	28

3.1.2 学生の留年・退学状況

表3.1.8～3.1.10には、年度別の学生の進級・卒業状況を示した。また、表3.1.11と表3.1.12には、平成15年度の学科別、クラス別の学生の異動（留年・退学）状況を示した。平成15年度もここ数年と同様に、多くの留年者および退学者を出してしまった。平成14年度と比較すると退学者数はほぼ同数で、留年者は少し減少しているが、他高専と比べるとこの数値は異常に大きい（四国6高専の中で一番多い）。これらの表から、平成15年度について次のことが読み取れる。

- 1) 退学者については、高卒同等資格（修了）を認めていることもあって3年生が多い。
- 2) 平成14年度と比較して、平成15年度の1, 2年生の退学者が増加している。これは、本校の導入教育のあり方を見直す必要性を示唆していると思われる。
- 3) 留年・退学者数に関しては、2年生においてクラス間格差が大きい。また、学科別に見ると、電気工学科3年生の退学者と材料工学科2年生の留年・退学者が多い。この対策としては、クラス運営方法の改善や連携・協力体制の強化が必要と思われる。

平成15年度から低学年教育委員会を設置し、1, 2年生の学習・生活指導に重点をおいた委員会活動を行ってきた。また、オフィスアワー制度の導入や朝のショートホーム（830運動）を実施（開始）した。さらに、年度当初に学年毎のクラス運営の目標を掲げ、目標達成を目指した指導・支援を行った。現段階では、目に見えるほどの成果は得られていないかも知れないが、今後、これらの制度をより充実させ、有効に活用していくことが肝要である。また、長期休業中の学習支援も検討、実施していくことが必要と思われる。

表3.1.8 年度別、留年・退学者数

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
留年者数	51	56	61	63	41
退学者数	49	46	65	53	52

表3.1.9 年度別、学年別、留年者数

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
1年生	4	6	9	6	4
2年生	7	24	5	17	11

3年生	20	14	21	17	9
4年生	17	9	21	14	14
5年生	3	3	5	9	3
合計	51	56	61	63	41

表3.1.10 年度別、学年別、退学者数

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
1年生	4	5	7	5	7
2年生	11	6	22	3	12
3年生	24	26	21	32	24
4年生	9	8	12	10	9
5年生	1	1	3	3	0
合計	49	46	65	53	52

表3.1.11 平成15年度学生異動状況(学科別)

		1年	2年	3年	4年	5年	計	
機械工学科	当初在籍数	42	42	38	38	31	191	
	異動	退学	0	1	4	2	0	7
		留年	1	1	2	4	1	9
	学年末進級者数	41	40	32	32	30	175	
電気工学科	当初在籍数		40	46	41	33	160	
	異動	退学		0	8	2	0	10
		留年		1	1	3	1	6
	学年末進級者数		39	37	36	32	144	
電気情報工学科	当初在籍数	43					43	
	異動	退学	2					2
		留年	1					1
	学年末進級者数	40					40	
電子制御工学科	当初在籍数	42	43	41	35	35	196	
	異動	退学	1	3	3	3	0	10
		留年	0	2	2	3	0	7
	学年末進級者数	41	38	36	29	35	179	
生物応用化学科	当初在籍数	40	48	38	38	31	195	
	異動	退学	2	2	4	2	0	10
		留年	1	2	3	2	0	8
	学年末進級者数	37	44	31	34	31	177	
材料工学科	当初在籍数	43	42	37	33	30	185	
	異動	退学	2	6	5	0	0	13
		留年	1	5	1	2	1	10
	学年末進級者数	40	31	31	31	29	162	
合計	当初在籍数	210	215	200	185	160	970	
	異動	退学	7	12	24	9	0	52
		留年	4	11	9	14	3	41
	学年末進級者数	199	192	167	162	157	877	

表3.1.12 平成15年度学生異動状況（クラス別）

		1年	2年	
1組	当初在籍数	42	43	
	異動	退学	2	3
		留年	0	3
	学年末進級者数	40	37	
2組	当初在籍数	42	43	
	異動	退学	3	3
		留年	1	0
	学年末進級者数	38	40	
3組	当初在籍数	42	43	
	異動	退学	0	3
		留年	1	1
	学年末進級者数	41	39	
4組	当初在籍数	42	43	
	異動	退学	1	0
		留年	1	2
	学年末進級者数	40	41	
5組	当初在籍数	42	43	
	異動	退学	1	3
		留年	1	5
	学年末進級者数	40	35	
合計	当初在籍数	210	215	
	異動	退学	7	12
		留年	4	11
	学年末進級者数	199	192	

3.1.3 授業外教育の実施状況

(1) インターンシップの実施状況

平成15年度のインターンシップは、昨年度とほぼ同様、本校4年生を対象に夏休み期間を利用して実施した。参加学生は169名で、その内、企業に118名、大学の研究室に31名、公設（研究）機関に20名が受入れてもらった。また、地域別の参加者数は、県内参加者が124名（63受入機関）、県外の四国内は19名（11機関）、四国外は26名（21機関）で、総計95機関からの受入をしていただいた。

平成15年度のインターンシップの実施にあたり、その事前学習を充実させるために、従来からのインターンシップ講演会の開催に加えて、個々の学生に対してはインターシップ先が決まり次第、その目的を明文化することを指導した（目的の提出）。また、実施後には、インターンシップ報告書の作成と報告会も各学科単位で実施した。なお、インターンシップ講演会は下記の通り実施した。

インターンシップ講演会A

講演者：三菱電機ビルシステム（株）人事部 二馬康昌

日時：平成15年7月14日（月） 12時30分～14時30分

場所：新居浜工業高等専門学校（視聴覚教室）